

# 土佐維新の港プロジェクト 高知市中央卸売市場の活性化に関する研究(1)

高知工科大学 工学部 社会システム工学科 建設マネジメント研究室

1100379 小川 翔平

指導教員 草柳 俊二 教授

現在、高知県の経済状況は衰退傾向にあり、その問題の一つとして観光事業の低迷があげられる。高知県の観光事業は基軸となるコンセプトや観光地相互の関係性が希薄であることが低迷の理由であると考えられます。本研究では、昨年度の山本健太氏・前田遼佑氏が行った卒業研究、浦戸湾「土佐維新の港プロジェクト」の新観光地開発場所の一つである高知市中央卸売市場の活性化を目的として、高知市中央卸売市場を高知の観光拠点とするプロジェクトを提案する。

**Key Words :** Local Economical development, fish market development, tourist attractions

## 1. 研究の目的

高知県は自然豊かで、海の幸、山の幸などの食がととも豊富であり、歴史や文化もある県である。全国的に見ても観光資源は多くあり、全国的に見てもトップクラスであると考えられる。しかし、現状は豊富な資源を活かしきれていない。保有する観光資源活用が大きな問題である。本研究では、この高知の自然・文化・食を最大限に活かし、高知の旬が集う高知市中央卸売市場を高知の観光拠点とするプロジェクトの可能性について分析した。



高知市中央卸売市場 築地市場

写真 1-1. 高知市中央卸売市場と築地市場の風景

### 1-2. 高知市中央卸売市場の問題点

#### (1) 卸売市場であり小売市場でない

高知市中央卸売市場は、国が運営管理しており、法により卸売目的の市場となっている。小売を行っていない為、一般客は市場に観光や買い物目的で訪れない。

#### (2) 一般客向けの施設がない

高知市中央卸売市場は、築地市場（東京）や函館市場（北海道）のように買い物や食事を行うことのできる施設がなく、市場の食堂も一般客には開放されていない。

#### (3) 市場までの公共交通手段がない

高知市中央卸売市場に行く為の公共交通手段がなく、自家用車で来ない人は市場へ行く手段がない。

#### (4) 市場と市場周辺の関連性が希薄

市場周辺には、水産加工会社や冷凍会社などが設置され、飲食店や売店等がなく、観光客向け施設が少なく、唯一黒潮観光が設置されている。

## 2. 高知市中央卸売市場の現状

### 2-1. 高知市中央卸売市場の概要

店舗数：鮮魚仲卸 26 店舗

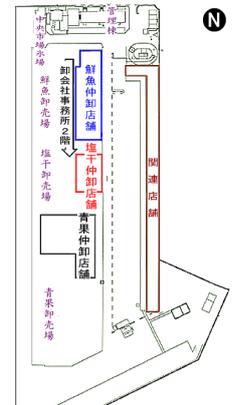
青果仲卸 16 店舗

塩干仲卸 10 店舗

他の観光施設へのアクセス距離

- ・ はりまや橋 約 3.1 km
- ・ 日曜市 約 3.7 km
- ・ 桂浜 約 8.1 km
- ・ 高知城 約 4.0 km
- ・ 五台山 約 3.5 km
- ・ 高知 I. C 約 8.7 km

機能：鮮魚セリ場・塩干セリ場・青果セリ場・食堂・会議室や勉強会施設・管理棟



地図 1-1. 高知市中央卸売市場

### 2-2. 高知市中央卸売市場の経営状況

高知市中央卸売市場の経済状況は年々衰退傾向にあり、高知市市場課調べの年度別取扱高では平成 10 年から平成 20 年の 10 年間で水産が約 104 億円・青果が約 59 億円、合計約 163 億円取扱高が減少している。同様に事業者数は 141 人減少、卸売市場経由率は水産 9.5%、青果 9.7%減少している。

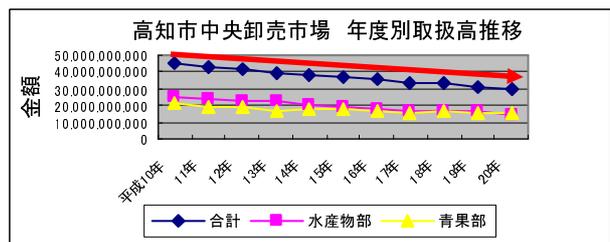


図 1-1. 高知市中央卸売市場 年度別取扱高

### 3. 知名度の高い市場の調査・比較

高知市中央卸売市場の改善の為の方策を見出すために、以下、各地の卸売市場の実態調査を行なった。

#### 3-1. 中央卸売市場

##### (1) 東京都：築地市場

築地市場は日本・世界最大規模の市場である。市場内には、飲食店が 39 店舗建ち並んでおり、一年中賑わっている市場である。公共交通手段も多く、とても便利で、観光客や一般客が利用しやすくなっている。また、市場周辺にも市場と関連する様々な施設が多くあり、魅力あふれる市場となっている。

##### (2) 長崎県：長崎中央卸売市場

長崎中央卸売市場は開かれた市場を目指しており、近海の魚が泳ぐ円柱形の巨大な水槽を市場内に設置している。海を展望できる展望台もある。そして、近年は市場関係者専用であった食堂も開放し、一般客に定食を安く提供している。

#### 3-2. 地方卸売市場

##### (3) 山口県：唐戸市場

唐戸市場は観光客で賑わう卸売市場として全国でも珍しい市場である。魅力は、市場ならではの豊富な海の幸を活かした海鮮屋台。仲卸の 17 店舗が場内で観光客向けの飲食販売を行っている。その場で食べられるようにして販売している点が人気。

##### (4) 北海道：函館市場

「函館自由市場」は、函館市民の買い物市場と呼ばれ、鮮魚、青果、干物、など 60 軒余りの店が市場内に集まっている。特に、魚介類の豊富さには定評があり、専門性の高い品揃えのお店が多いのが特徴である。毎月 8 日、18 日は「自由市場の日」として、市場内全店合同の特売日になっている。

### 4. コンセプト

高知の食・文化・自然を堪能してもらうことのできる観光市場の開発プロジェクトとして、県外・海外の「フィッシャーマンズワープ」をイメージし、参考に考える。プロジェクトを進めるにあたり「土佐の食・文化・自然を最大に活かしたエンターテイメント性のある市場の創造」が重要になる。



写真 1-2. サンフランシスコ フィッシャーマンズワープの風景

#### 4-1. 「フィッシャーマンズワープ」のコンセプトとは

「漁師の波止場」と呼ばれ、様々な色の漁船が停泊し、採れたばかりの新鮮な魚介類が水揚げされる活気溢れる港を観光資源としたもの。

#### 4-2. 市場周辺に観光ワープを建設する理由

高知市中央卸売市場は観光資源として立地条件がとても良い。様々な観光施設へのアクセス距離も近い。そして、高知県の旬が集う市場である。しかし、現在の市場や周辺地域は飲食店や売店がなく、観光としての機能が全くない。綺麗な海に囲まれてはいるが、多くのふ頭用地が存在し、見栄えも良くない。こういった条件を打開できるプロジェクトを考えた結果、港を利用したフィッシャーマンズワープを建設する事で、市場や市場周辺地域の観光資源化が行えると考えた。

### 5. 高知市中央卸売市場観光地開発プロジェクト

#### 5-1. 土佐の旬が集う新鮮市場(第二のひろめ市場)

高知(土佐)を代表する新鮮な魚介類や青果を売りにした海鮮屋台を設置する。

高知県は黒潮の幸に恵まれ、太陽の光あふれる南国の地である。高知市中央卸売市場には四季折々の選りすぐりの味が集結する。こういった土佐の旬ものを売りにした海鮮屋台を作り、調理して販売できるようにし、県内外の観光客が土佐の味を堪能できる施設を建設する。海鮮屋台では、寿司や刺身、から揚げ、フライなど様々なものを販売する。

#### 5-2. 観光ワーププロジェクト

■市場内、市場周辺の空きスペースに安全な釣り場を設置

小さな子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の方に高知の海を楽しんでもらう為に釣り場を設置する。ただ釣り場を設置するのではなく、釣った魚を市場内・市場周辺にある飲食店に持っていくことで、釣ったばかりの新鮮な魚を捌いてもらうことのできるシステムを作る。

■超巨大水槽付飲食店を設置

市場内に超巨大水槽付飲食店を設置する。水槽は全面ガラス張りになっており、水揚げされたばかりの新鮮な魚を水槽で泳がす。ただ、水槽で泳ぐ魚を見るだけでは面白くないと考え、観光客はその水槽内を泳ぐ魚の中から食べたい魚を選び、その場で捌いてもらうことができるシステムを取り入れる。見て楽しい、味わっておいしい飲食店を作る。

■展望台設置計画

高知の浦戸湾内を一望できる展望台を設置する。高知の海を堪能してもらい、より一層高知の魅力を感じられるようにする。

■市場周辺に観光ワープを設置

日本の市場や海外の市場などでは、市場が一つの観光スポットとなっている。それは、市場周辺に観光ワープがある事が大きな要因である。高知市中央卸売市場周辺には、多くのふ頭用地がある。その、ふ頭用地を有効活用し、観光ワープを設置す

ること高知県の新たな主要となる新観光拠点を作ることができ、魅力ある市場の創造ができると考えた。

## 6. アンケート調査・集計（一般人 100 人）

### 6-1. アンケート概要

- 調査方法：無作為抽出による調査(100部)
- アンケート内容：上記のコンセプトについての質問(15問の選択式)
- 実施期間：2010年1月23日(街頭アンケート)
- 回答率100%

### 6-2. アンケート結果

高知市中央卸売市場を観光拠点とすることについて一般人 100 人にアンケートを行った。今回の対象者は無作為に選び調査を行った。

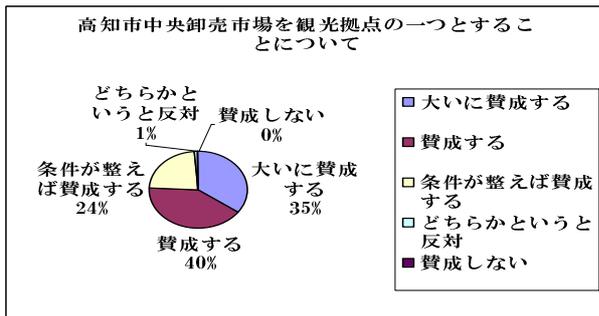


図1-2. 中央卸売市場を観光拠点の一つとする

アンケート結果より99%の方が「賛成する」と回答した。その理由として「高知県に活気が出るから」という意見が36%、「観光客の増加は高知県に必要なから」という意見が31%、「高知の物産を全国に配信できる」18%、「その他」15%であった。

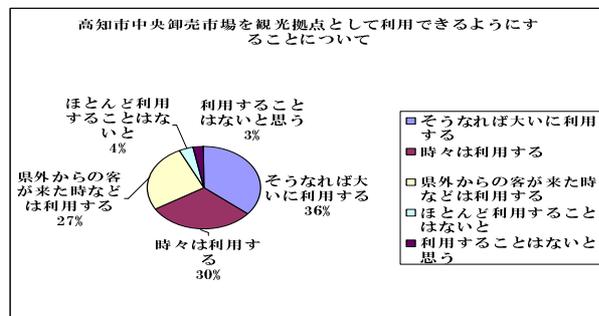


図1-3. 中央卸売市場を観光拠点としての利用

高知市中央卸売市場を観光拠点とした場合市場を利用しますか、という質問に94%の方が「利用する」と回答した。図1-2、図1-3のアンケート結果より、市場の観光資源化への必要性を見出すことが出来た。

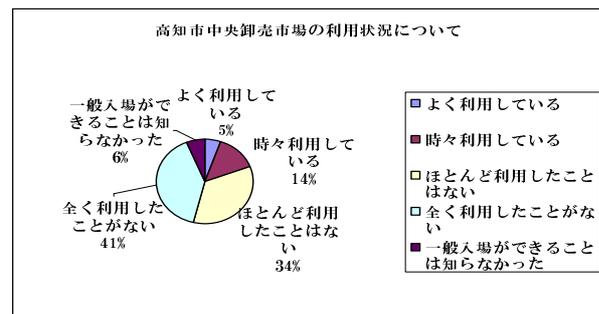


図 1-4. 中央卸売市場の利用状況について

高知市中央卸売市場の利用状況についてアンケート調査を行った結果、81%の方が「利用したことがない」と回答した。アンケート結果より、現状の市場には一般客が魅力を感じていないことが明確に結果として出た。

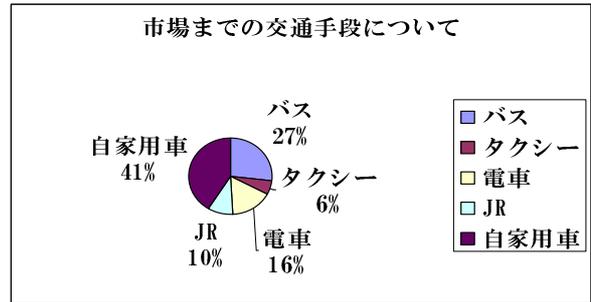


図 1-5. 市場へ行く交通手段

市場までどのような交通手段で行きたいか、という質問に 41%の方が「自家用車」と回答したが、59%の方が「公共交通」を利用したいと回答した。アンケート結果より市場までの公共交通機関の整備・見直しが必要である事が分かった。

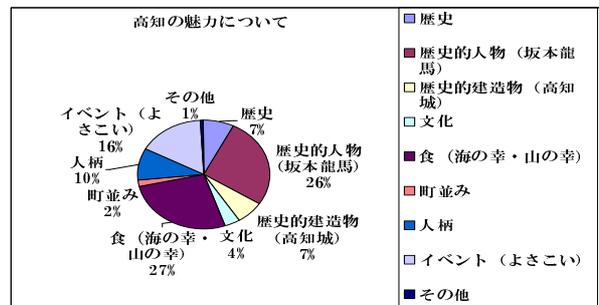


図 1-6. 高知の魅力について

高知の魅力についてアンケートを行った結果より、「食文化」と回答した方が 27%、「歴史的人物(坂本龍馬)」と回答した方が 26%、「よさこい祭り」と回答した方が 16%という結果が出た。このアンケート結果より、高知県は様々な魅力があるが、高知県民が考える魅力として食文化であるという結果が出た。

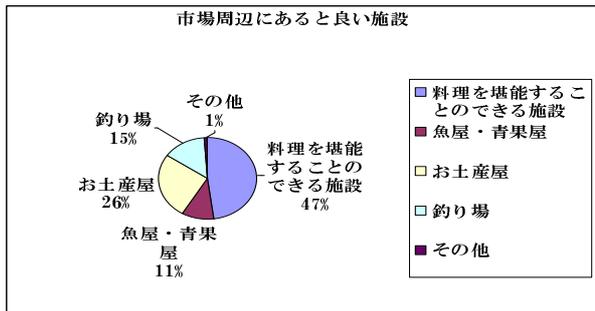


図 1-7. 市場周辺にあると良い施設

市場周辺にあると良い施設について一般人 100 人にアンケートを行った結果、47%が「料理を堪能することのできる施設」と回答し、26%の方が「お土産屋」と回答した。図 1-6、図 1-7 の結果より、高知市中央卸売市場を観光拠点とするにあたり、高知の旬が集う市場において食文化を売りにしたエンターテインメント性のある観光市場の建設を求めていることが分かる。

## 7. アンケート調査・集計（市場関係者 25 人）

### 7-1. アンケート概要

- 調査方法：市場関係者への配布（25部）
- アンケート内容：上記のコンセプトについて卸売市場に対する実行性について（24問の選択・記述式）
- 実施期間：2010年1月20日～1月25日（市場）
- 回答率100%

### 7-2. アンケート結果

高知市中央卸売市場を観光拠点とすることについて市場関係者 25 人にアンケート調査を行った。

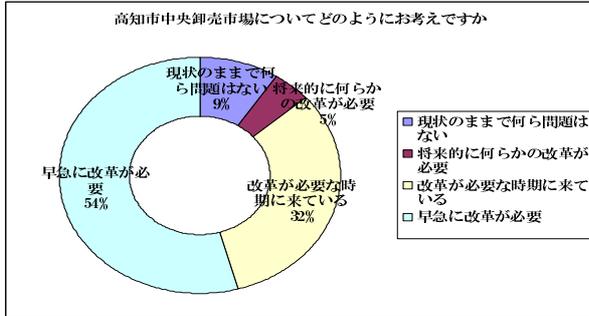


図 2-1. 中央卸売市場についてどのようにお考えですか  
市場についてどのように考えているか市場関係者 25 人へアンケートを行った結果、91%の方が「改革が必要」と回答している。その内 86%の方が「改革が必要な時期に来ている」と回答している。アンケート結果より、現在市場で働くほとんどの方が現状の市場に満足できていない事が分かる。

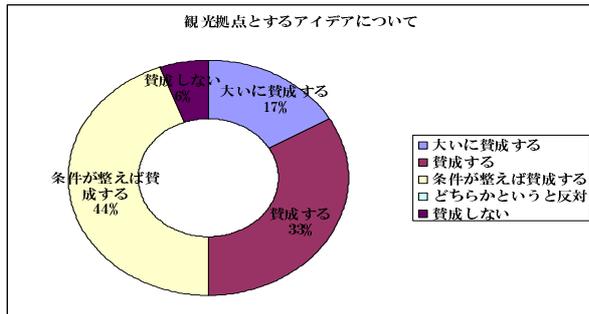


図 2-2. 中央卸売市場を観光拠点とするアイデアについて  
高知市中央卸売市場を観光拠点とするアイデアについてアンケートを行った結果 94%の方が「賛成する」と回答している。その理由として、31%の方が「市場に活気が出るから」と回答した。「売り上げの向上が期待できる」と回答した方が 19%、「観光客の増加は高知県に必要」と回答した方が 19%、「高知の物産を全国に配信できる」と回答した方が 15%という結果になった。

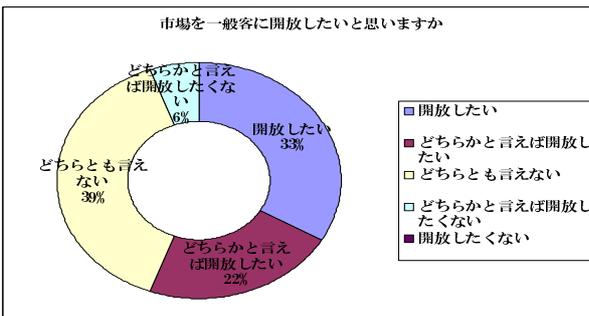


図 2-3. 市場を一般客に開放する可能性

市場を一般客に開放したいと思うか、という質問に対して、55%の方が「開放したい」と回答、39%の方が「どちらとも言えない」と回答した。この結果の理由として、元々、法によって高知市中央卸売市場は卸売の為の市場である為、市場関係者は「市場を変えたい」という気持ちはあるが、実行できていない現状がある事が分かる。

## 8. アンケートからの考察と改革実施案

アンケート調査の結果、高知市中央卸売市場は新観光地開発プロジェクトを行い、土佐の旬が集う海鮮市場（第二のひろめ市場）建設やフィッシャーメンズワープの建設を行うことで、県外に誇る事のできる高知ならではの魚市場の創造ができるのではないかと考えた。市場の観光拠点化には市場関係者、一般人の 97%が賛成意見でありとても関心が高いことが窺える。市場関係者の意見として、「今すぐに市場を改革してほしい」と言う意見が多く、市場関係者の市場活性化に対する気持ちがとても強いことなどが 今回のアンケート調査によって知ることができた。ここで初めて高知市中央卸売市場の新観光地開発プロジェクトの必要性が見出されたと考える。改革実施案として、市場と市場周辺に観光ワープ造る為の設計図を作成し、具体的な定量的分析を行っていく必要がある。そのデータを高知市市場課や市場関係者に見せ、プロジェクト実施への協力態勢を造っていく必要がある。

## 9. 結論

高知市中央卸売市場は高知の食の魅力が詰まった市場であり、観光としての立地条件も良く、他の観光施設とのアクセス距離も離れていない為、観光場所としては優れた場所であると言える。観光としての機能を持たすことで、今以上により一層魅力あふれる市場となる可能性を秘めている。

現在は、卸売としての機能が主となっている為、小売や観光としての機能はあまり持っていないが、高知市中央卸売市場は観光としての市場になる資質はある。なので、コンセプト次第で大きく変わると言える。他県の知名度の高い市場などでは、こういった資源や立地条件を活かしている為、観光としての機能を持つ市場となっていることが言える。

今後は、高知市中央卸売市場の活性化だけではなく、高知県の観光事業の活性化を担う存在の観光市場となるように高知市中央卸売市場の新観光地開発プロジェクトを興す必要があると考える。

### 参考文献

- ・ 高知市市場課（配布資料）
- ・ 2009 年度卒業論文 浦戸湾「土佐維新の港プロジェクト」（山本健太氏）
- ・ 2009 年度卒業論文 浦戸湾「土佐維新の港プロジェクト」（前田遼佑氏）